



漁業の復活で地域再生！

あと30年、漁業で栄える町に



は い だ
早田 地域水産業再生委員会
(JF尾鷲 早田支所)

「限界集落」と呼ばれた町で取組まれたのは、基幹産業である大型定置網漁業の担い手確保。いまや各地から集まった若い世代に支えられ、将来に渡って存続できる地域として再生。

①早田町の大型定置網漁 ②早田港
③水揚げの様子 ④ドローンで撮影した大型定置網 ⑤新船 第八明神丸
⑥⑦⑧早田漁師塾の様子 ⑨(株)早田大敷の漁師たち
(引用：(株)早田大敷ホームページ・facebook)

基幹産業、大型定置網で不足する次世代の担い手

三重県尾鷲市にある小さな町、早田町は、人口約150人、65歳以上が65%以上を占める※、いわゆる「限界集落」だ。平成22年、町の再生を目指し、産学官が連携して立ち上げた『ビジョン早田実行委員会』の取組みの要は、町の基幹産業である大型定置網漁業の再生だった。乗組員の高齢化、後継者の不足など、次世代の担い手の確保に地域全体で取組むことが求められていた。(※平成29年12月末日現在)

長期型研修『早田漁師塾』で若返りを実現

1ターン・Uターンで若者を確保するために考案されたのが、4週間の長期に渡って住込みで行われる研修プログラム『早田漁師塾』だ。一般的な体験漁業は数日間と短い場合が多く、受講者は内容の習得ができない上、開催者側のケアも不十分なものになってしまう。理想ではなく現実の漁業・漁村生活をじっくりと知ってもらうことが町への定住を促し、末永く漁業に取組んでもらうために必要だと考えられた。早田漁師塾の開設後、この地で

大型定置網漁業を営む(株)早田大敷には、1ターンを中心に若者が集まり始め、また、彼らが呼び水となってさらに若い世代を呼び寄せた。現在、乗組員の半数を超える20人を40代以下の若い人材が占めるようになっている。担い手対策の他、新たな技術や取組みにも積極的だ。大型定置網漁では、モニタリングシステムを導入。魚群探知機・水温計を搭載した漁具を海上に設置し、出港前に情報を収集している。漁船の大型化にも取組み、合わせて手動式の活魚締め処理機を導入して、ブリなどの活締

め出荷により魚価向上を実現した。なお、これらの魚にはQRコード付きのタグが付けられ、そこからfacebookを通して消費者と生産者を直接つなぐ画期的な挑戦も進めている。資源管理の意識も高い。小型魚を保護するため箱網の目合いを調整したり、混獲したヨコワの放流後の生存率を高めるためエアレーションを強化したり、将来に渡って漁業を継続するための配慮が行われている。早田町の漁業では、担い手、体制、資源、全てにおいて将来を見据えた取組が進められている。

町の存続のために、全ての関係者が手を取った

早田地区での取組みは、漁業に関わる全ての地域が課題とする担い手対策に風穴を開けるものだ。だがそれ以上に、基幹産業である大型定置網の立て直しによって、地域を存続させることに焦点が置かれている点が欠かせないポイントだ。研修者を受け入れる現地の住民や、丁寧な教育を心掛けるベテラン漁師、また制度的な支援を行う自治体など、地域に関わる全ての関係者の協同が実現した成果だ。

表彰選定委員会でのコメント (一部抜粋)
「限界集落化していた地域が、自発的に取組み、高齢者が若手を迎え、新船建造などの取組により、これから数十年先も漁業が続けられるような環境を整えた。」
「今まで地域の中で発言する機会がなかった人たちが動き出した点で評価でき、取組体制で多くの人が連携したというところでポイントが高い。」

再生委員会 情報
●委員会名：早田地域水産業再生委員会 ●代表者：岩本 芳和
●構成メンバー：尾鷲漁業協同組合 早田支所、ビジョン早田実行委員会、(株)早田大敷、三重県漁業協同組合連合会、尾鷲市 等
●対象地域：尾鷲市早田町 ●対象漁業：大型定置網漁業、小型定置網漁業、一本釣り漁業 等

浜プラン詳細

